

第5章 鹿島臨海鉄道

第1節 8月16日(月)：鹿島神宮～北浦湖畔 晴れ

鹿島神宮(12:38)～鹿島サッカースタジアム(14:05)～荒野台(?)～
長者ヶ浜潮騒はまなす公園前(15:25)～鹿島大野(?)～鹿島灘(16:45)
～大洋(?)～北浦湖畔(18:50)

青春18切符シリーズの第3弾・第4弾は、2004年8月16日(月)から17日(水)夏季休暇を活用し挑戦する。一人で楽しむウォーキングでは初めて宿泊付きの旅となった。これまで泊まりの絡むウォーキングは3回ある。いずれも団体が絡んでいる。ひとつは、わいわい会(高校同窓歩こう会)で強羅駅＝箱根湯本駅踏破後、湯河原に宿泊し、翌日湯河原駅＝二宮駅を歩いた。二つ目は、小田原駅から箱根湯本駅まで歩き嵐山会(フコク生命立命館大同窓会)に出席した。最後は伊香保温泉でフコク生命30周年同期会(昭和48年入社)に出席し、翌日渋川駅から新前橋駅を歩いたことがある。いずれも、時間を有効活用することからのウォーキングであった。旅朝4時に起床し、南林間5時半の始発で勝田に向かう。本来ならば朝から大洗鹿島線を鹿島神宮から挑戦する予定であった。しかし、日立駅からウォーキングを中止する事態があったため、勝田から水戸までの5.8kmの踏破後、鹿島臨海鉄道への挑戦となる。



※勝田駅、勝田橋



※東横イン、水戸駅

勝田駅には9時2分に電車が着く。本日は先日の北口と異なり男女の銅像のある南口に回り、駅前の記念写真を撮る。南口の方が賑やかな感じであった。勝田駅から1Km位茨城交通がJR線に沿って走っていた。途中、日工前駅（9時20分）があった。日工前踏切を渡ると日立工機の事業所があった。日工は日立工機の略称と思われる。勝田でも日立グループが日立・常陸多賀に加え、お膝元の感じであった。自衛隊の駐屯地が日立工機と隣り合わせにあった。坂を下った先にJR線が見えて来た。JR線に少しでも近づいたため、右斜めに続く水戸勝田那珂（なか）湊線（63号線）に切り替える。勝倉であった。ところが、途中進行中の道路が那珂川の土手にぶつかる辺りからJR線を潜り右に大きく方向転換していた。この道の直進も可能であるが、JR線対しこれから向かう勝田橋より若干遠くなる感じとなり、今後の展開を考え引き返しのコースを選択する。勝田橋を10時10分通過。ここで大切な4色ボールペンを落としそうになるが気づく。この橋を渡るとひたちなか市から水戸市となる。馬渡水戸線（県道351号）を通り、水戸駅を目指す。前回、暗闇の中、勝田から水戸に向かっていたら間違いなく迷子になっていただろう。ここまでに来るのに難所が随所にあった。昼間だから難なくクリアできた。浜田十字路には10時40分到着。この交差点には大洗鹿島線が頭上を通っていた。東台町、東桜川を通り、桜川土手から本日宿泊する東横インをカメラに収める。桜川に面してホテルはあった。水戸駅南口には11時15分着。万歩計は18,894歩だった。これで高萩から上野までの常磐線164.7Kmが繋がった。

常磐線の歩きを終え、待望の鹿島臨海鉄道（第3セクター）に挑戦する。11時26分のディーゼル車で鹿島神宮駅を目指す。新しい発見であるが、鹿島サッカースタジアムから鹿島神宮までがJR線であった。しかし、誤ってJR線を含めて購入したため、水戸駅で一旦払い戻しを受け鹿島神宮駅で精算（1,350円）する。青春切符の関係で180円安くなった。大洗鹿島線の大半は2両編成であるが、今回は1両編成であった。鹿島臨海鉄道でも関東鉄道と同様、人件費削減面からワンマンカー方式を採用していた。

鹿島臨海鉄道も生まれて初めて乗る鉄道のため、窓からの風景を堪能することができた。水戸から大洗までは田園地帯であった。大洗と涸沼（ひぬま）の間は荒野のなかを走っている感じでトンネルが続いた。涸沼から鹿島神宮は森林の中を、そのうち北浦湖畔から大洋までは山間を走っている様子であった。沢山の谷越えを見かけたが、大きな川を越える場面はなかった。途中、12時15分大洋駅で上り列車の離合があった。この駅前でバーベキューをしている真っ黒に日焼けした若者の7～8人のグループがあり、われわれを手で歓迎してくれた。全体を通し、大洗鹿島線は窓からは歩くには大変なコースに見えた。しかし、これまでのウォーキングを通じて感じたのであるが、電車等の窓からのコースが難しいそうに見ても、意外に歩いてみると簡単なコースが多々あった。今回のコースもこのことを期待するのみである。



※鹿島神宮駅

鹿島神宮駅には 12 時 38 分着。駅前で食事処を駅ホームで見かけ、この店に入る。実は駅前を見晴らした限り、この店しか食事する場所はなく、選択する余地はなかった。昼飯時間帯のため店は満席であった。人の良さそうな 65 歳位の夫婦等と合席となる。野菜炒め定食を注文する。味はまずまずであったが、定食の割にはご飯が少なかった。半ライス位の量であった。



※鹿島サッカースタジアム駅

13 時 10 分この店を出て、鹿島サッカースタジアム駅を目指す。途中、清真学園高校があった。少林寺拳法部で全国高校総合体育大会出場のお祝いの垂れ幕を見かける。鹿島消防署南交差点から県道 242 号に入る。この交差点にあるセブンイレブン鹿嶋スタジアム入口店（鹿嶋市宮中）で買い物をする。これから先コンビニが余らないと判断したからである。鹿島サッカースタジアムには 14 時 5 分到着。駅はサッカーの試合がないため閉鎖していた。サッカースタジアムにはひと気が全くなく静寂そのものであった。沿道には 50m 位にわたるポスター等で、2002 年行なわれたワールドカップの足跡が刻まれていた。スタジアムを背景に記念写真を撮り、次の荒野台駅を目指す。この駅のバス停は見かけたが、鉄道の荒野台駅は見逃す。これまで踏破した駅名で最も長い「長者

ヶ浜潮騒はまなす公園前駅」には 15 時 25 分到着する。国道 51 号との太鼓橋の下にあった。このシリーズ随所で同じタイプの太鼓橋を見かける。元国鉄だけあり鉄道施設には投資していた。



※荒野台駅、長者ヶ浜潮騒はまなす公園前駅

鹿島大野駅のバス停は見かけるが鉄道の鹿島大野駅は見逃す。荒野台といい、鹿島大野駅といい鉄道まで近づき駅を発見しようとしたが見つからず。鹿島灘駅は運良く 242 号から駅が見えて来た。丁度上り列車が入ってくる瞬間を運良くカメラに収めることができた。16 時 45 分だった。日暮と本日宿泊のチェックインの関係から後 2 時間位しか歩けない。目標の新鉾田（ほこた）駅まで 12.1Km もあり、新鉾田駅までは到着できそうにない。そうすれば、4.1Km 先の大洋駅かそれとも頑張って 8.2Km 先の北浦湖畔の何れかで本日はアップとなる。選択が必要となる。



※鹿島大野駅

明日の日程を考えれば、北浦湖畔までは足を進めたいのだが。大洋駅の到着時間で決めることにする。地図を点検して進む。馬場交差点の辺りに大洋駅があると判断でき、大洋駅クリアはやさしそうだった。しかし、幾ら行っても馬場の交差点は見つからず。地図の名称が変わっていたのだろう。現在持参している地図は、2 週間位前の日立踏破の際購入したのであるが、地図を鵜呑みにすると危険である。一例として、地図で「川

尻駅」が「十王駅」に変更になっていた。242号の幹線道路が急に細くなり、辺りの風景が山間になって来た。それで、「もしかしたら通り過ぎたのでは」と思い、犬を散歩させていたご婦人に聞く。予想通りの回答であった。17時40分頃通過した交差点が多分馬場であったのであろう。夏至を過ぎると日没時間が先週より数分ずつ早まるので注意を要す。特に、8月の中旬ともなると、18時半を過ぎると暗くなる。何としても明るいうちの山越が必要である。そのためには有力な目印として鉄道を越える地点を押さえる必要があった。この地点からの観測が信頼度を高めることができるからである。この鹿島臨海鉄道は高架か土豪である。踏切は一切ない。高架は比較的分かりやすいが、土豪は雑草等で川と思いき見逃す恐れがある。特に単線であるし、電柱もないのでその心配は高い。18時過ぎ242号と鉄道の交わる場面に出くわし安堵する。山道は怖い。特に日が暮れると恐ろしさは数倍に膨れ上がる。車以外に通行人には遭わないこともある。うす暗くなりつつある山道を500m歩く。途中1箇所に街灯があった。242号の突き当たりにぶつかる。左手方向が銚田方面であった。迷うことなく左に進む。念のためゴミを道路で燃やしていた家族に北浦湖畔の距離を聞く。山なりに進み、前方500m位先にあるとのことであった。まもなく行くと、運良くライトを照らした下りの列車が北浦湖畔駅に入る場面に出くわす。それで方向性が一層明確になる。18時半を過ぎていたので辺りはうす暗くなっていたので助け舟であった。もし、道の確認をせず、ライトを照らした列車が前方に見えなかったら、北浦湖畔駅の方向には向かわず、新銚田駅に向かっていただかも知れない。そうなれば、ロス時間に加え危険が伴っていたかも知れない。不案内の土地は日没すると怖くて歩けないのがこれまでの私の体験である。



※鹿島灘駅、大洋駅



※北浦湖畔駅、北浦湖畔界限

北浦湖畔には18時50分に到着する。喉がからからで自動販売機を探したが一切なし。待ち時間を利用して、東横インに30分程度到着が遅れ20時半になると連絡する。20分位の待ち合わせで上り電車が来る。2両編成のワンマンカーであった。運転手さんは20代後半の女性だった。新銚田駅と鹿島旭駅で離合があった。大洗駅と東水戸駅でも離合するが行き先は大洗駅までであった。大洗駅で女性の運転手から男性の運転手に切り替わる。最近では鉄道の女性乗務員をよく見かける。JR線、小田急線それから小湊鉄道等で。女性の乗務員を見ると、気持ちがホットな気分となり疲れが癒される。水戸駅には19時56分の到着となる。

水戸駅内にある越後そば「水戸庵」でビールと天婦羅定食を注文する。のどがからからであり、ビールが最高に美味しかった。こんな美味しいビールは久しぶりである。東横インには予定通り20時半にチェックインする。夕食のカレーのサービスがあるとのことだった。前払いの5,980円を支払う。同僚の本川さんが推奨してくれたホテルだけあり、駅からも近いし感じのいいホテルであった。特に、専用の冷蔵庫とズボンプレッサーが印象に残った。713号には8時40分着。桜川が一望できる部屋だった。本日の営業距離は27.1Km、万歩計は64,914歩だった。「豆タンク 秋の荒野を かけっこか」

第2節 8月17日(火)：北浦湖畔～水戸 曇り

北浦湖畔(6:55)～新鉾田(8:15)～徳宿(9:40)～鹿島旭(10:40)～
涸沼(ひぬま、11:55)～大洗(14:30)～常澄(つねずみ、15:40)～
東水戸(17:15)～水戸(18:20)



※北浦湖畔駅

第126回目のウォーキングは、2004年8月17日(火)の中、実施。うす曇りであった。昨日は夏の風物詩である蝉の合唱を森で聞いたが、何となく先週に比べ秋の日差しを感じた。漢語表現からすると「秋暑の候」がぴったりする日差しであった。更に、曇りのため本日は涼しく「初秋の候」を感じた。朝5時前に目が覚めた関係で、ホテルを5時半に出る。昨夜は朝7時からの朝食をとり、水戸駅を7時39分発列車も考えた。しかし、目が早く覚めたかことと、過去の経験から営業距離34.9Kmのクリアを8時半のスタートでは難しいと判断し出発時間を早めた。営業距離の2割り増しに加え遠回りとなる大洗海岸線の歩きが要求され、最低でも11時間は要すると思われた。昼食時間を加えれば、11時間半である。日没時間を想定すれば、逆算で北浦湖畔駅を7時位のスタートが必要であった。予期せぬ事態が私を待ち伏せていることも想定する必要があった。余裕時間は多ければ多いほどよい。そのようなことから、急遽、水戸駅6時の2両編成列車で北浦湖畔駅を目指す。朝早いこともあり、車内はガラガラであった。新鉾田駅までワンマンカーではなく車掌の乗り合わせがあった。ダイヤの関係からであろう。東水戸と鹿島旭で上り列車の離合があった。昨日に比べ一層道路の状況を注意深く観察

する。昨日は荒野台、鹿島大野それから大洋と3駅見逃した。今日はなんとしても全駅クリアが目標である。

北浦湖畔駅には6時55分到着。一人中学生位の女生徒がホームにいた。7時前のウォーキングは初めてである。早朝のウォーキングは気持ちがよい。今回の宿泊がなければ、7時前のスタートは不可能である。このような早いスタートは、平成12年7月1日(土)、山手線踏破の際朝7時のスタートが1度ある。早朝という意味では新記録更新である。7時前のスタートは静寂であった。駅前には1台車を止めている人がいた。万歩計は1,634歩からのスタートとなった。二重作大排水路を超えた先に、今通っている道路が「茨城鹿島線(県道18号)」である」と道路標識にあった。7時10分、二重作川を境に大洋村から銚田町に住所が変更になる。茨城県には、大洋村の他、本日登場する旭村、先日踏破した東海村がある。村は珍しいというか親しみを感じる。7時45分、安塚の交差点にあるHOT SPARのコンビニで朝飯を購入する。



※新銚田駅、徳宿駅

10分くらい遠回りして、新銚田駅には8時15分到着する。駅前にはホテルがあった。この駅は無人駅ではなく駅員がいた。新銚田駅から少し行った先に紳士服ハシモト、常磐線の十王駅前でも見かけた中央進学会があった。大型スーパーから北に下る下太田銚田線(県道114号)を見つけ左折する。地図で現在位置を確認するため、駐車場に居合わせた男女の若いバイクドライバーに聞く。彼らもこの地区は不案内であったが、私が想定するような回答が来たので安心した。確認した道路は鉄道に沿い右側にあった。徳宿(とくしゅく)駅には9時40分着。この駅は道路から目立つところに「徳宿駅」の看板があり、ホームは一向に見えてこない構造になっていた。駅ホームは道路から3m位下がったところにあった。農道を通り、県道114号に出る。農道沿いにあった植物はお茶のような気がするが、農家の出身でありながら果実を見れば野菜名は分かるが、田にある野菜名は分からない。野菜や花、それから木々に至る植物名が言えない。代表的な南瓜・胡瓜・トマト等は分かるが、ごぼうやジャガイモ等になると分からなくなる。

お恥ずかしい限りである。徳宿から鹿島旭にかけハウスが多々あった。



※鹿島旭駅、涸沼駅

銚田町を過ぎると旭村であった。鹿島旭駅には珍しく案内板があった。県道 114 号から 300m 位左折した先に鹿島旭駅があった。10 時 40 分に着いた。駅前には広々としたターミナルであった。この駅が旭村の中心のひとつであることが推察できる。後で記録を見たところ、2,500Km の踏破駅となった。当初は次の涸沼（ひぬま）駅と思ったが、勘違いしていた。今回は「横」が 2500Km に関係しないと思ったら、意外なところで「横」が関係した。それは、東横インの「横」である。1,000Km 踏破の際には新横浜駅が登場した。2,000Km 踏破の際は久留里線の横田駅である。田崎郵便局、旭北小学校を 11 時 35 分通過。2,500Km の営業距離は西鹿児島駅から長万部駅までに相当する。ちなみに西鹿児島駅から小樽駅までが 2,737.5Km である。



※大洗への路、茨城百景大貫海岸



※大洗海岸、大洗八朔祭

鉄道を右側に越え 3Km 位行った先に潤沼駅があった。潤沼駅前後で墓地の標識やいいこの場所の看板を随所で見かけた。大谷川橋を渡った先に潤沼駅があった。11 時 55 分に到着したにもかかわらず、時計は 9 時 5 分前で止まっていた。この駅には土産物屋とコーヒショップがあった。100m 位行った先に旭村と大洗町の境があった。ここからは山道となる。12 時 25 分大洗町総合運動公園の道路標識を目にする。大洗水族館 8 Km、大洗マリンタワー 5 Km の案内板の少し前で死後 2 ヶ月位の猫のミイラーとなった死骸に出会う。そのほかに鳥や蛇の死骸等を見る。12 時 30 分成田高架橋を通過。50m 位先には大洗鹿島線の橋下駄が見えた。大洗の峠に差し掛かった辺りから小雨に遭う。12 時 55 分には大洗町立夏海小学校、13 時 10 分には大洗町立南中学校を通過する。この中学校を越えた先に大洗海岸が見える。13 時 20 分、茨城百景大貫海岸で記念写真。小湊海岸や勝浦海岸でも経験したが、山越えの後海岸線が広がる。大洗海岸も同様であった。大洗海岸には 13 時 30 分到着。手で塩水に触れるため海岸に向かう。去年は外房の海の塩水に触った。今日は曇り空のこともあり、海水客は少なかった。今年の場合大洗海水浴は 7 月 17 日（土）から 8 月 23 日（日）とあった。ひやま海の家、なつみや、みつわという業者が海岸線から見えて来た。海岸線には海水客を監視するメンバーが二人いた。一人は外国人であった。

海岸線を 13 時 40 分頃後にし、大洗駅を目指す。商店街軒先には 8 月 28 日（土）～ 29 日（日）にかけ行なわれる「大洗八朔祭（はっさく）」のポスターを随所で見かけた。潤沼駅以降昼食をする店を探したが適当な店が見当たらず。やっこのことで、大洗駅から 5 分位手前のところで蕎麦屋（さくらい）を見つける。14 時であった。店には誰もいなかった。私が行くまでご主人は寝転んで高校野球を見ていたのであろう。私が店に入るや否やあわてて起き上がったのが印象的であった。冷やしたぬきを注文する。麺は少し固かったが、味は先ず先ずであった。店は昼時間帯を過ぎ暇そうであった。高校野球（東北高校戦）が中継されていた。大洗駅に 14 時 30 分到着。この駅も新銚田駅と同様、駅員がいた。駅広場には大洗海水浴場までのシャトルバス（大人 100 円）が止まっ

ていた。大洗海岸まで歩くと 20 分位は要する。駅前には茨城大洗タクシーの事務所もあった。大洗駅から少し行った先のセブンイレブンでパンを購入する。先程の冷やしたぬきでは満腹感がなかったからである。



※大洗駅、涸沼川（水戸への路）

涸沼川の橋のところを 14 時 45 分通過。橋を渡ると水戸市であった。ここから、鉄道の右側に出る。涸沼川沿い暫く歩く。しじみがこの川でとれるらしい。涸沼川ではつりを楽しんでいる人もいれば、モータボートに乗ってスリルを楽しんでいる若者もいた。大洗＝東水戸間は鉄道から 300m 位右の道路を進む。道なりに人工のため池に出会う。水田が多いためであろう。農道と一般道を行ったり来たりしながら、常澄駅には 15 時 40 分到着。腹の調子が悪くなり、トイレに駆け込む。鹿島臨海鉄道は元国鉄だけあり、トイレの施設は全駅にあったと思われる。腹の調子が悪かったこともあり、常澄駅が蜃気楼ではないかと思った。これまで途中で腹痛を起こし駅やスーパー等に何回か駆け込んだことがある。鉄道つたい歩きは何とかなるものである。16 時 55 分、香取稻荷神社を通過。水戸市立上大野小学校の前を 17 時通過。校門前には数個の標語があった。「あいさつは最初は勇気最後は笑顔」「あいさつは心が通う言葉のまほう」



※常澄駅、東水戸駅

東水戸には17時15分に到着。ここから鉄道の右側をつたい歩きして、昨日通過した「浜田十字路」に出る。18時頃であった。200m位を幹線道路を歩いて、桜川の土手に出る。沢山の人が夕方の時間を利用して、ウォーキングしている人もいれば、犬の散歩をさせていた人もいた。18時5分、柳堤橋を渡った先で犬を散歩させていた人から「渡辺さんですか」と質問を受ける。世の中には似ている人がいるようである。水戸駅には18時20分到着。駅のトイレで着替えして18時38分の上野行き乗る。途中、土浦から1本前の電車で接続していたが、ウォークマンで音楽を聴いていた関係で駅放送が聞き取れず、次発の電車となり15分位ロスする。最近の巨人は試合展開がふがないので、プロ野球ラジオ中継は敬遠している。ストレスになるからである。新宿駅でも小田原と足柄の落雷の影響で電車が15分位遅れる。南林間最終のバス(22時45分)に何とか間に合い、自宅には23時位着く。本日の営業距離は34.9Km、万歩計は81,736歩だった。本日で待望の鹿島臨海鉄道と常磐線(高萩―水戸)を踏破する。昨日から本日にかけての一泊二日のウォーキングは、私の今後の活動を展開する上でプラスとなり有意義であった。今後はこのノウハウを生かし、水郡線や吾妻線等の踏破に挑戦したい。



※桜川、水戸駅